

令和2年度下半期 国際委員会活動報告

担当理事：菱木 知郎 副担当理事：康 勝好
委員長：岡本 康裕 副委員長：富澤 大輔
委員：上原 秀一郎、加藤 格、七野 浩之、野上 恵嗣、森 鉄也、
オブザーバー：高橋 義行

(1) 学術集会日韓ジョイントセッション

- ・2020年度の第62回学術集会における日韓ジョイントセッションのテーマは急性白血病に対する再移植であった。

日本側の演者として、

鹿児島大学 岡本康裕先生/名古屋第一赤十字病院 坂口大俊先生

韓国側の演者として、

The Catholic University of Korea, Dr. Jae Wook Lee

Seoul National University College of Medicine Dr. Kyung Taek Hong

がそれぞれ選出され、学会2日目の2020年11月16日に開催された。

- ・2021年度の第63回学術集会日韓ジョイントセッションのテーマは、乳児急性リンパ性白血病である。日本からは、宮村能子先生(大阪大学)、青木由貴先生(国立がん研究センター中央病院)、韓国からは Dr. Seung Min Han (Yonsei University)、Dr. Jung Yoon Choi (Seoul National University)が演者として選ばれた。

(2) 韓国小児血液がん学会(KSPHO)からの演者推薦依頼

- ・KSPHOから本学会あてに、2020年10月25日にソウルで開催されるKSPHO学術集会のJSPHO/KSPHO joint symposiumの演者推薦の依頼があった。テーマは骨腫瘍で、下記2名を本学会として推薦し、講演が行われた。

Current trends in management of osteosarcoma: Hiroaki Hiraga (National Hospital Organization Hokkaido Cancer Center, Japan)

Current status and future perspectives of Japanese clinical trial for Ewing sarcoma: Japan Ewing Sarcoma Study Group: Dr. Hideki Sano (Fukushima Medical Univ. Hospital, Japan)

- ・2021年のKSPHO学術集会のJSPHO/KSPHO joint symposiumのテーマはBone Marrow Failure Syndromesである。詳細が決まり次第、演者を推薦する予定。

(3) WHO小児がんProject

WHOが2018年からの取り組みとしてWHO Global Initiative for Childhood Cancerのprojectを立ち上げた。目標達成に向けて、当学会としても日本小児がん研究グループ

(JCCG)および国立国際医療センター (NCGM)との連携のもと、協力していく方針が確認され、数度会合が開催された。新型コロナ感染症のために一時活動を休止していたが、2021年1月27日から活動を再開し、カンボジアで小児がん診療に従事している嘉数真理子医師とwebを通じて、症例検討を9回実施し、合計20例について検討した。

(4) 学会のホームページ更新

社会・広報委員会と共同で、学会ホームページの英文ページの更新を行った。

以上

(文責：鹿児島大学小児科 岡本康裕)